

2008年度 同志社大学大学院
司法研究科法務専攻（法科大学院）専門職学位課程
入学試験 第2次審査
試験問題

法律科目試験

（憲法）

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この表紙を開けてはいけない。
2. 資料として配付する六法もケースに入れて机の上に置き、試験開始の合図があるまで、開けてはいけない。また、六法に傍線等書き込みや折り曲げをしてはいけない。
3. 筆記用具（ペンまたは鉛筆）、消しゴム、下敷き（ただし、下敷き使用の場合は監督者の許可を得ること）、その他監督者が特に許可したもののほかは使用できない。これ以外の携行品は、監督者の指示に従って所定の場所に置くこと。
4. 問題紙の本文は、1頁である。試験開始後ただちに欠落や印刷の不鮮明な箇所がないか確認すること。欠落や印刷の不鮮明な箇所がある場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
5. 解答用紙は、4枚1組である。
6. 各解答用紙の左下に受験番号の記入欄がある。組になっている2枚目以降の解答用紙の受験番号欄にも受験番号を正確・明瞭に記入すること。
7. 解答は、ペンまたは鉛筆で記入すること。
8. 試験開始後は、終了まで試験場から退出できない。
9. 試験はすべて監督者の指示によって行う。監督者の指示に従わない場合や不正行為を行ったときは、試験場から退出させる。
10. 試験中に気分が悪くなる等やむを得ない場合は、黙って手を挙げ、監督者の指示に従うこと。
11. 試験終了の合図とともに、すみやかに筆記具を置き、監督者の指示を待つこと。許可があるまで試験場を退出できない。
12. 試験終了後、問題紙は各自持ち帰ること。
13. 携帯電話やPHS等の通信機器の使用は認めない。電源を切ってカバン等にしまうこと。
14. 試験時間中の飲食は禁止する。ただし、水分補給のため、ふた付きのペットボトル（ペットボトル以外は不可）に入った飲料を持ち込んで飲むことを認めるが、机の上に容器を置かず、必ずふたを閉めて足元に置き、机上にこぼしたり、水滴によって解答用紙を汚損しないよう十分注意すること。

2008年度 同志社大学大学院
司法研究科法務専攻（法科大学院）専門職学位課程
入学試験問題 法律科目試験

(憲 法)

以下の問に答えなさい。

【第1問】

憲法19条の思想・良心の自由保障規定の意義、保障範囲について説明せよ。なお、この説明の中で、憲法19条と憲法21条との関係についても言及せよ。

【第2問】

第1問での叙述を前提とした場合、次の事例においては、どのような憲法判断が下されるべきかについて述べよ。

<事例>

A 県の公立小学校の音楽専科の教諭 B は、「自己の思想・世界観・歴史観（ないし、『君が代』が過去において果たしてきた歴史的役割に対する否定的評価）に基づき、学校の入学式のような公的儀式の場で、『君が代』斉唱のピアノ伴奏をすることは避けたい」との希望を、同小学校校長 C に対して、あらかじめ表明していた。が、校長は、「君が代」ピアノ伴奏を行うようにとの職務命令を同教諭に対して行った。入学式当日、同教諭がピアノ伴奏を開始しないので、あらかじめ用意されていた録音テープでの伴奏で「君が代」斉唱が行われた。校長から報告を受けた A 県教育委員会は、地方公務員法29条に基づき、教諭 B に対し、職務命令違反（同法32条違反）を理由として、懲戒処分（戒告処分）を行った。そこで、B は、戒告処分の取消訴訟を提起し、本件職務命令および戒告処分は憲法に違反すると主張した。